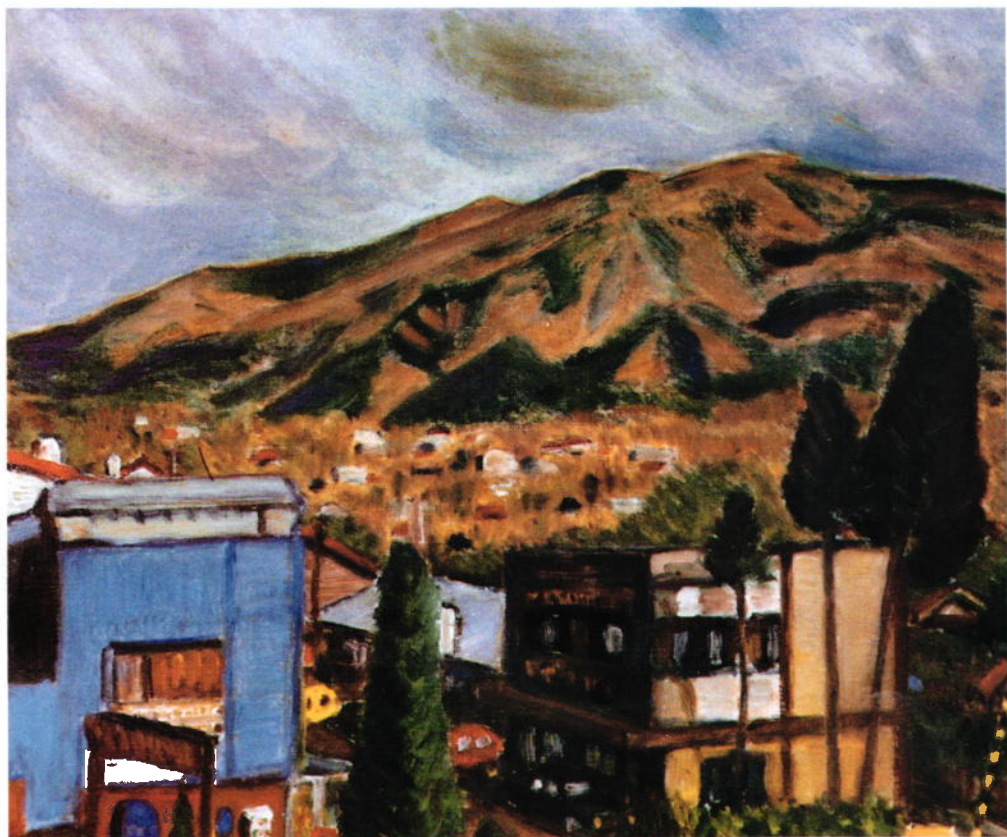


西多摩医師会報

第114号 昭和57年4月季刊号



強羅風景

速水完 一画

目次

時報

昭和56年度定時総会……………2

文芸・随筆

短歌・賛春歌……………小泉 新策…3

ご挨拶……………井沢 良夫…4

理事会報告

3月臨時理會……………5

計報……………6

事業部だより

学童健康障害対策委員会

第1回対外アンケート調査報告……………7

新人紹介……………8

医師会日誌……………9

同好会だより……………ゴルフ研修会……………10

会報編集委員より

鈴木 修、堤 次雄、植田 稔、
菅井義久、高木惟史……………10

あとがき……………道又 正達…15

昭和56年度定時総会

昭和57年3月27日

西多摩医師会館

PM 2:00～

出席会員 118名

瀬戸岡会長あいさつ要旨

本日は公私共においそがしい所、会員各位におかれましては多数御出席下され、定時総会を開催することが出来ましたことを有難く思っております。私達が主として執行部に入りまして2年の歳月があつというまにすぎてしまいました。その間色々なことがございました。国内においては高度経済成長にともなう福祉優先の施策も、低成長期に入って反対に福祉みなおしに方向転換してしまいました。膨大な赤字国債をかかえた政府は、この解消のために行財政改革をせざるをえない破目になりました。厚生省はこの改革にかこつけて、従来の保険制度とちがう保険局所管でない公衆衛生局所管の老人保険法案を前国会に提出、衆議院通過、目下参議院で審議中であり、都医はこの法案について医療国営、官僚支配につながると反対を声明し、一方日医では都医との微妙なくいちがいを見せながら、なお私達はこの法案の行方が心配です。

私達西多摩医師会においても、社会的[■]化や、地域の特殊性に適確に対応し、会員諸先生の絶大な御協力をいただきながら多くの事業をすすめてきたわけでありまして、各自自治体、関係機関との緊密な協調をはかり、西多摩地区医療懇話会、同医療保険衛生協議会などを充分活用し、社会的責任を果たさなければならないと思います。4月新年度からは新しく1才6ヶ月児検診も加わり、休日、準夜、夜間診療、救急医療、学校保健、予防接種やあらゆる検診事業を円滑に運営することが、ひいては地域住民の信頼をより高めることだと思います。

このあと56年度事業報告が各部の責任者の方々から発表していただきますが、1年前の総会で会員の方から早くつくれとの提案がありました事務職員の服務、給与規定などについて、又災害時医療救護対策の集大成について、又前年度都医重点

事業の一つである児童、生徒の育成強化に関連のある少年スポーツなどによる四肢骨端障害も含めた色々の健康障害のアンケートについて、それぞれの担当の理事の方から報告してもらいたいと思います。

私達医師をとりまく内外の情勢が複雑多岐にわたりますと共に、私どもの仕事もますます多事多端となりましょう。先生方におかれましては、ますます健康に御留意され御活躍あられんことを願ひまして、あいさつにかえます。



議決事項

1. 昭和56年度各部事業報告
報告通り承認
2. 議事
第1号議案 昭和56年度収支補正予算案につき

承認を求める件

第2号議案 昭和57年度事業計画案につき承認
を求める件

第3号議案 昭和57年度収支予算案につき承認
を求める件
(摘要のミスプリント訂正)

以上3議案の可決承認

第4号議案 任期満了による役員的一般選挙
当選者は次のとおり

職名	定員	当選者氏名	摘要
会長	(1名)	瀬戸岡 進	再
副会長	(2名)	江本 虎雄	新
"		西村 邦康	"
理事(互選)	(3名)	植田 稔	新
"		川辺 隆道	"
"		小林 康光	"
理事	(13名)	東 吉男	再
"		足立 卓三	新
"		大塚 涉	再
"		木野村 幸彦	"
"		佐々木 章	新
"		塩 沢 三朗	"

"		菅 井 義 久	再
"		高 木 直	新
"		中 村 武	再
"		箱 崎 淳	"
"		林 実	新
"		堀 田 洋	再
"		松 原 貞	"
監事	(3名)	大河原 一周	新
"		福 島 大 寿	"
"		米 山 秀 雄	"
医道審議会委員	(9名)	池 田 聖	再
"		井 上 富 美	"
"		栗 原 琢 磨	新
"		笹 本 義 太 郎	再
"		高 木 直 二 郎	新
"		堤 次 雄	再
"		波 田 野 洋 夫	新
"		葉 山 林 信 隆	再
"		平 田 萬 次	新
議長	(1名)	内 田 芳 明	新
副議長	(2名)	島 田 守	新
"		土 田 一	"

文芸・随筆

短歌

賛春歌

小泉新策

いよよ春花の月とはなりにけり
とざされし冬のいかにながきよ

ほのぼのと明けわたりゆく秋川の
川瀬にあまた水鳥の舞ひ居り

春らしき心なごめる朝の景
怖れげもなく悠々と翻ひ居り

あたたかき恵みの雨に庭先きの
椎の梢木に茸むれ生づ

水仙の蕾もあまた伸びて見ゆ
幾日ならずには黄花开かむ

藪に啼く鶯をききつ端居して
風情楽しも我が庵かな

花粉禍の騒ぎをよそに杉檜
梅も盛りをすでに過ぎたり

自然界は大い循環と小さきそれ
巡りめぐりていや榮えゆくなり

ご 挨拶

井 沢 良 夫

私は今月の3月31日をもって定年で福生病院長の職を退職致します。

私が着任しましたのは、今から約30年以上も前の昭和25年のことでした。福生病院は元々は戦時中昭和飛行機株式会社の附属病院として、都の蚕種試験場の建物を買取って改造されたものであり、それをいろんな経緯から現在の国保連合会が引き継ぎ経営することになり、私と元院長の宗像教親先生が慶応から赴任して参りました。

扱て来てみて驚いたことは当時の福生町は基地の街として物情騒然としているし、病院は古い先生方は御存知のように草茫々のほかに古色蒼然とした建物がたち、とても病院といえるような代物ではありませんでした。手術場は雨天体操場を仕切ったものであり、病室にいたっては州崎の遊廓から移築した建物を使用していて、まことに奇妙奇天烈な間取りにも驚きました。実を申せば私は赴任を断ろうと思ひ、居るにしてもそう長く居る気は全然ありませんでした。

しかし当時は未だ青梅市立病院はもとより病院と名のつくようなものは全くなく、はじめての総合病院というもの珍しさも手伝って、患者も非常に多く来院しました。又当時名医師会長といわれた山田正礼先生の率いる西多摩医師会の先生方も皆紳士揃いで、我々を暖かく迎えてくださって、病院を利用し、後援して戴いて、両者の摩擦等は全く起らなかったと記憶しています。前記山田先生をはじめとして今は亡き江藤先生、香西先生、池田先生方の風貌が懐かしく想い出されます。

私は若さにまかせて、まあやりたい放題のことをさせて戴き、インターン指定病院の指定をとりつけ、おこがましくも全国募集をして「東京」と聞いて応募して来たインターン達にあまりの貧弱な施設にびっくりされたりしましたが、その中には出藍の誉れも高く現役の教授が2名、又三多摩をはじめ各地で開業盛業中の医師も相当数おられます。施設は多少悪くても、本人が頑張れば立派な医師になれるのであって、新式の器具がなければ学問が出来ないという風潮の今の若い方たちは少しせいで済だと思ひます。又就職出張して来た若

い先生方に逃げられない様に研究室と称する荒屋で仕事をして貰ひ、それを慶応に持ち込んで学位をとらせたり、病室の方も僅かの縁をたよりに東電の結核病棟を50床も建て、貰ったり徐々ではありますがはじめの40床より次第が増えて行きました。そんな訳で割合と居心地よくつついそのまゝ居据って了った様な次第です。

其後本会直営の南多摩病院が八王子に開設され、宗像院長は病院担当の理事として移り、私が昭和31年からは院長として勤務することになりました。西多摩医師会管内でも公立では青梅市立総合病院が設立され、阿伎留病院も伝染病院から一般病院へ転換され、私立の方も大聖病院・目白第二病院等が整備され、ようやく郡内のベッド数も増加して参りました。又福生病院の老朽病棟も当地選出の福田篤泰元代議士等の皆様方の御努力により防音改築工事の予算がつき、現在の福生病院が出来上りました。

私はこの福生の地に30年以上も勤務し、医師会の諸先生方は勿論患者さんのなかにも多くの知己を得て、全く快適な勤務が出来たことを幸福に思ひ、心から感謝致しております。

私の後任には長年副院長として一緒にやってきました蓮沼君が昇格、これも皆様とおなじみと思ひますが内科医長の久保君が副院長になりますが、私同様よろしくお願ひ申し上げます。

私もこの地が去り難く、当分の間は病院顧問として勤務致しますので、これまたよろしくお願ひ致します。

* * *

先きの会報111号に松原君が「祈り」という文を掲載されましたが、あれは私の事であり、同文にある様に松原君には大変御心配をおかけしてしまいました。今のところはどうか小康をえております。編集委員の道又君が、お前も何か返礼の文を書けと行って来られましたので、難行苦行の「リナック治療記」でも書こうと思ひましたが、つつい日があつてしまいましたので、これは又の機会にゆづりこのご挨拶を以て替えさせていただきます。(昭和57年3月21日記)

理事会報告

3月臨時理事会

昭和57年3月8日

PM7:30～

西多摩医師会館

出席 12名

1. 報告事項

- (1) 三多摩会長協議会報告 瀬戸岡会長
1. 国保請求書全国決済に伴う要望書の提出について。
 2. 57年度校医、園医について。
- (2) 昭和56年度各部事業報告 各部長
1. 各部によりそれぞれ報告あり。
 2. 下記条件及び報告事項につき担当理事を選定する。
 - ① 就業規則、賃金規程、退職金規程案について — 江本理事
 - ② 災害時の医療救護計画案について — 吉野理事
 - ③ 学童健康障害検討委員会第1回対外アンケート調査報告 — 堀田理事

2. 協議事項

- (1) 上記各部事業報告の定時総会提出について
全員異議なく承認
- (2) 互選理事の性格について(東部地区会提出)
西村理事
本件は次期執行部で検討、懸案事項として申し送る。
異議なく了承
- (3) 定時総会開催日を3月中可及的早めに開催されたい
西村理事
申し送り事項とする 了承

3月臨時理事会

昭和57年3月17日

PM7:30～

西多摩医師会館

出席 14名 議長 1名

議題

1. 定時総会開催準備全般について検討

- (1) 昭和56年度定時総会次第について
大塚理事
- (2) 定款施行細則42条、43条訂正の確認について
丸茂
- (3) 投票は記号式、定数以内連記とする
全員了承
- (4) 立候補者名発表
西村理事
(五十音順)

会長理事候補者名(定員1名)	近藤 肇
"	瀬戸岡 進
副会長理事候補者名(定員2名)	内山 大
"	江本 虎雄
"	西村 邦康
理事候補者名(互選)(定員3名)	植田 稔
"	川辺 隆道
"	小林 康光
理事 (定員13名)	足立 卓三
"	東 吉男
"	大塚 涉
"	桂木 真
"	加藤 出
"	木野村 幸彦
"	佐々木 章
"	塩沢 三朗
"	菅井 義久
"	高木 直
"	中林 敬一
"	中村 武
"	箱崎 淳
"	林 実
"	堀田 洋夫
"	松原 貞一
"	吉野 住雄
監事候補 (定員3名)	大河原 周
"	福島 大寿
"	米山 秀雄
議長候補 (定員1名)	内田 萬次
	川崎 健一郎

医道審議会委員候補者(定員9名)及び副議長候補者(定員2名)については、本日締切りに定数に満たないため定数施行細則第52条3項により3月26日午後5時迄延期する。

- (6) 告示及び投票用紙、掲示の候補者名順番のくじを引き決定する
- (6) 唐橋善雄氏立候補辞退について確認（締切時間前） 了承

2. 報告事項

- (1) 学童健康障害検討委員会第1回対外アンケート調査について 堀田理事
 - (2) 災害時の医療救護計画案について 吉野理事
 - (3) 職員就業規則、賃金規程、退職金規程案について 江本理事
 - (3)については次期執行部で検討する 了承
- 以上

都医地区医師会長協議会報告 米山副会長

- 1. 東京都医師会からの伝達事項
 - (1) 昭和57年度胃精密検査協力医療機関の推せんについて
 - (2) 集団予防接種会場への往復及び従事中の傷害補償について

2. 協議事項

総会資料の内福祉部事業報告につき協議の結果追加分を削除する。 全員異議なく了承

3. 理事会を選挙事務管理に切替える

- 1. 近藤肇氏会長理事候補辞退について 定款施行細則第54条「やむを得ない事由」と認め辞退を受理。 全員異議なく承認
 - 2. 辞退通知分を明日速達にて発送
 - 3. 選挙投票方法の改正について 定款施行細則第42条(昭和54年3月24日改正)改正部分項目㉞の確認。「必要の場合は記号式投票をすることができる」を㉞4とする。 全員了承
- 以上

3月臨時理事会

昭和57年3月24日
 PM7:30～
 西多摩医師会館
 出席 12名

議題

1. 報告事項

訃 報

栗原正吾先生急逝さる

永年西多摩医師会五日市地区で御活躍なされていきました栗原正吾先生が、3月27日午後8時10分

弔 辞

謹みて、栗原先生の霊に惜別の蕪辞を述べさせて戴きます。先生との交友は、私が西多摩医師会に入会した時であります。爾来30有余年になります。この間、先生は医師会の各種役員に就任なされ、又、多年日大同窓会西多摩支部長を歴任なされ、種々ご高導を賜りました。由来先生は当地の代々有力者として医療に携さわり、地区住民の極めて信頼する処でありました。又、医療のみならず地域の保健衛生業務等地方衛生行政にも尽力なされ、地域社会の人々より、その功績が讃えられ

肺癌の為急逝されました。同窓の先輩である三澤剛文先生から弔辞がよせられました。

之が為、各種行政機関団体よりの感謝は厚く多数の感謝状、表彰状はその実績を物語っているところでありまして、医師としての職責を全うされました。

然るに先生は忽然として病に倒れ、忽然として幽明境を異にしようとは、先生の急逝は誠に浮き世の夢の如く転た世の無情を嘆かざるを得ません。而しながら現在先生の医療は立派なご子息、ご家族により受け継がれて居り、何等の不安もなく後顧の憂いなく家門の将来は益々ご多幸の先生であ

4. 現在、養護教諭として最も関心をもっている事柄についておしらせ下さい。

心身症についてくわしく知りたい	18
性教育について	8
肥満児対策	7
保健指導計画について	5
脊柱側弯対策	11
食品添加物について	5
学童のむし歯	5
姿勢、発育	8
骨折、ひざの疾患	6
外傷処置のしかた	3
皮膚病	2
精神衛生、登校拒否	4
回答なし	4/83

5. 医師会に対して要望したいことがありましたらおしらせ下さい。どんなことでも結構です。

回答、要望あり………47/83

回答なし、要望なし…36/83

要望事項：学校、医師会両者の懇談会を (保健指導、連絡等の為)	16
保健指導の為に必要な 研修会、講演会を	9
伝染病等発生時の診断、 指示規準を統一してほしい	6
学校から転送した学童については すぐ診てほしい	3
学校検診を一括、集中して 実施できないか	1
校医に専門医を加えてほしい	1
証明書は無料にしてほしい	1
昼休み時間に学童を診てほしい	2
医師会として、もっと積極的に 学校、地域の為に活動を	8

※ 新 人 紹 介 ※

西多摩郡羽村町神明台3-15-8

窪田医院 窪田 勇

経歴 大正7年5月26日生

本籍 鹿児島県日置郡伊集院町

故郷には朝鮮の役、関ヶ原役で有名な島津義弘を祀る神社があり、秋の例祭には、鹿児島より20料を満月の下、徒歩多数の青年子女児童が参拝、歩いて鹿児島に帰る妙園寺参りが行われます。又、「わが胸の燃ゆる思ひに較ぶれば、煙は薄し櫻島山」の福岡志士平野国臣は之を吾が故郷で詠んだと言われます。寺田屋事変の中心人物有馬新七も吾が町の出身です。今時日米比島決戦で最初の特攻隊として戦死された有馬中將も先輩で、私の分婉は同中將の母上の介助によるものです。中学校は県立鹿児島第二中学校。ハワイ海軍特攻隊横山少佐は私より1年下級。羽村診療所の福島先生は更に1学年下級になります。鹿児島第七高等学校、東大医学部を卒業。22年3月木本助教授(都築教授追放中)、鹿大内山外科、国立相模原外科皮膚泌尿器科を経る。同病院在職中残余素クラアラ

ンス試験を主論文として東大泌尿器科市川教授の主査で学位を得、羽村町の現住所に居を構えましたのは44年5月。当時神明台は道路は整然と都市設計されていましたが、日産の羽村寮がある位のものでした。

家族歴 妻嘉寿子。2男2女。長男恆志東急建設勤務。玉川線藤岡駅近傍に居住。次男省吾青山学院電子工学科3年在学。娘2人私の手伝い。

最近の読書 山本周五郎、第二次世界大戦記。豊田穰、吉村昭彦、伊藤正徳等の作品。尊敬する人としては安岡正徳先生で、医師会に入っています。健康法としては同先生の推奨なさる真向法体操、朝夕の散歩を出来る丈心懸けています。朝食抜きの1日2食。昨年9月軽い脳血栓で左下肢不全麻痺で衣服の着脱等1ヶ月位障碍され、それ迄時々楽しんでいたパチンコは以来中止。煙草15~20本。還歴を過ぎること約4年。身心の条件に出来る丈日常配慮を努めています。擱筆するに当たり、坂本会長始め福島先生等皆様敬愛できる先生方で、今後とも宜敷く御指導御鞭撻願います。

医師会日誌

医療機関数 146 病院 23
診療所 123

会員数 236 A会員 135
B " 101

会議

3月 8日 臨時理事会
12日 会報委員会
17日 臨時理事会
24日 定例理事会
27日 定時総会

講演会・その他

3月 8日 整備会
11日 学術講演会
18日 "
17日 " (総合病院主催)

役員出張

3月 3日 都医福祉部連絡会
10日 三多摩救急医療連絡会
"日 五日市保健所定例会
11日 青梅保健所母子健康対策協議会
12日 福生准看卒業式
13日 福生保健所母子健康対策協議会
17日 保健所連絡会
19日 都医会長会
"日 多摩医学会幹事会
29日 都医都立学校医連絡会
"日 都医経理担当事務員連絡会

会員通知

○学術講演会

- 学術講演会
- 告示
- 医薬品評価の終了した医薬品の取扱いについて
- 薬価基準の一部改正案について
- 国民健康保険組合の被保険者証の更新について
- 会報
- 青梅市立総合病院主催学術講演会案内
- 告示
- 定時総会案内
- 追告示

退会々員

医院名 矢ヶ崎医院(廃業)
氏名 矢ヶ崎久雄
住所 瑞穂町箱根ヶ崎 2241

氏名 辻 ゆり
勤務先 青梅市立総合病院

氏名 三方律治
勤務先 青梅市立総合病院

氏名 池田吉昭
勤務先 青梅市立総合病院

物故会員

氏名 栗原正吾
医院名 栗原内科整形外科
住所 五日市町五日市 1-6

先月号訂正 退会々員 菱山萬亀子
誤 → 菱山万里子

同好会だより

第27回西医ゴルフ研修会

昭和57年1月24日(月)

立川国際CC

風もない好天に恵まれ、絶好のゴルフ日和りとなり、熱戦の中にも、高笑いあり、ボヤキあり、実に楽しい一日でしたが、松原先生がみごと優勝されました。

氏名	アウト	イン	グロス	ハンデ	ネット	順位	
松原	43	47	90	19	71	1	
辻	47	56	103	31	72	2	
大嶽	45	42	87	11	76	3	BG
葉山	48	44	92	15	77	4	
大嶽夫人	48	55	103	25	78	5	
工藤	49	41	90	11	79	6	
波田野	50	47	97	16	81	7	
鈴木	49	48	97	14	83	8	
内山	47	49	96	12	84	9	
足立	51	48	99	14	85	10	
川崎	52	58	110	24	86	11	
林	48	47	95	9	86	12	
立花	53	57	110	24	86	13	
杉本	51	48	99	12	87	14	BB
江本	48	50	98	10	88	15	

第28回西医ゴルフ研修会

昭和57年3月22日

今回は高水先生の御尽力により名門コースである狭山GCにて開催されました。当日は微風、快晴のポカポカ陽気に恵まれ、熱戦、舌戦をくりひろげましたが、宮川先生が堂々のベスグロ優勝を飾りました。

氏名	中	out	グロス	ネット	ハンデ	順位	
宮川	42	39	81	75	6	1	BG
鈴木	48	44	92	78	14	2	
秋山	55	53	108	78	30	3	
林	47	43	90	81	9	4	
立花	48	55	103	81	22	5	
堤	51	51	102	82	20	6	
杉本	47	48	95	83	12	7	
内山	48	47	95	83	12	8	
葉山	51	48	99	84	15	9	
平林	48	40	98	85	13	10	
江本	45	40	95	85	10	11	
松原	56	58	104	85	19	12	
足立	51	59	100	86	14	13	
大河原	59	53	112	88	24	14	
加藤	58	59	117	90	27	15	
浜保	63	63	126	90	36	16	
大嶽	53	51	104	93	11	17	
工藤	57	48	105	94	11	18	

2年間の会報編集を顧みて

鈴木 修

昭和55年5,6月合併号から2ケ年(第92号から第113号まで)、再び初めから読みかえてみました。私達委員にとっても色々の思い出が残されていますが、会報そのものが西多摩医師会の歴史を物語っている様でもあります。

毎月の会報編集委員会も何となく過ぎて来た様ですが、こゝに会報を並べて見ますと、堤委員長の御苦労がしのべれます。

会報のあり方は色々でしょうが、私は2年間をふりかえて二、三感じましたことを。医師会々

員相互の意見の交換の場として利用する方法を考えたいと、又日本医師会雑誌の様に理事会報告を詳細に記載するのも必要かと思えます。学術関係の記事は西多摩医師会での講演会については抄録位でよいのではないのでしょうか、それに近在の医師会その他の講演会等の案内も欲しい様に思われます。文芸随筆等は会報のかた苦しさをほぐす意味からも是非必要と思えます。経費の点では紙質は多少落ちて内容も充実させたいものです。

* * *

20年近く住みなれた現在の家の内部を一部改装することになって、3月から200m程はなれた2DK?の小さいアパートの一室に仮住いをしています。今までは道をはさんで並んでいた診療所に行くにも今度は200mはなれてしまって唯200mですがゆききが一寸やっかいです。又日常生活

の行動も異なり何か落ちつかない日々です。身体の調子も多少くるって来た様です。慣れた生活、環境が変わることは少しのことでも変調を来す様です。

4月から又新しい執行部のもとに西多摩医師会も出発することになるでしょう。順調な発展を願ってやみません。
以上

編集室よ、さようなら

堤 次 雄

頬をなでいく風も、ふっくらと柔らかくて、それはもう春の肌ざわりであります。小さく硬かった桜の蕾も春風に暖められながら、少しずつ綻びはじめてきました。この号が会員諸先生の手元に届く頃は、桜の花も盛りとなっている頃でしょう。そして、この時期には我々の任期も既に終り、代って、新しい編集委員の方が、希望に燃えて活躍されるわけであります。去っていった任期の「躁」であったり、「うつ」であったりの2年間をふり返って、私の挨拶といたします。

人間生きていけば時の流れの中で、私的にも公的にも予期せぬいろんな事におつかるものであります。一寸先は闇と云う。吉とでるか、凶とでるか、丁か半か、これはみなその人の巡り合わせなのである。それは人間が生きていく上の妙味とも云うべきであろうか。私は一体、今、何を喋べろうとしているのか。悪い癖だ、話が横道に逸れかかっている。私は真面目に編集会議の反省の方に舵を向けねばならない。

新編集委員が決まる

55年4月、瀬戸岡会長より9名の編集委員が任命された。私を除き8名の方達は偶然にも、マゾ的性格の方の集りではないかと思ったのである。それは、私のようなぐうたらを、なぜか委員長に推したがり、そう決められたからである。その為、毎月の編集会議の度に、私の不手際に苛立ち「ちえっ」とか舌打ちしながら苦難、忍従の(快樂なかも)道を敢えて歩かれることになったのだが、それは私の責任ではない。

55年4月某日の編集会議において、委員、「4月半ばの編集会議では、来月初めに5月号発行は時間的に一寸厳しくないですか。」

委員長、「前例はないけどさ、5、6月合併号でいきましょう。一回省けりゃ楽だし、第一に経費の節約になる。これ、いいじゃないですか。」

安易に流れようとするのは私の性癖、生来諦めはきわめてよろしい。「合併号!!へえ、編集委員は何をとするのか」との声もちらっとは耳にしたが、細かいことは気にしない。俺は知らねえよ、と具合の悪いことは右から左に聞き流す。これ又、私の得意とするいい性質なのである。

季刊制をとる

或る日、執行部より「会報は少々金を食い過ぎてる。予算内でやれんものかね」、大ざっぱには、こんな話であった。

上部の意に沿うべく、白いの、黒いの、何となく淋しいの、ごま塩と九つの頭を寄せ合って、乏しい頭脳をしぼる(経済に対する頭脳のこと)。この結果は季刊号を作り、長い随筆文、学術等はこの中に纏めてしまう、と決めた。だが、学術委員の方から、「季節的の疾病の話もある。大事な学術文を3ヶ月も遅らせるとはどういうことじゃ」とクレームがつく。又、「おい、会員の為の会報だよ、今まで通りにやれよ。え、かね?ばあか、かねの事なぞ気にすんな、俺がついてるぜ」。些か無責任と思える太腹の或る会員の有難い声もこれ又、ちらっと聞いた。時論、理事会報告、後記だけの2、3頁じゃ格好悪いじゃんか、と随筆も学術も適当に入れてこのことは、段々なし崩しになって来たようである。

表紙について

前前委員長の時は表紙のテーマが、玉堂画伯の絵であり、前委員長の時は多摩の橋の写真であって、何れも西多摩にゆかりのあるものであった。

(12)

我々もいろいろと考えたが、いゝ案が出ない。多摩の社（宗教団体でない）、多摩の女（今は銀座の女と変りばえなし）、多摩の男（ホーデン自慢の男のようで品がない）。要するにどうにもこうにも名案なしであった。結局は写真、絵、書のテーマなし、ポルノ以外は何でもよいと決めたのである。

近藤肇、近藤友好、鹿野、佐々木の諸先生、原田事務長に写真をご無理願ひ、又、米山、内山の両先生には自作自慢の絵を出して戴き、島崎先生には立派な書を頂戴しまして、有難うございました。特に洋画は、会員自作のものに限り、カラーにしてご好意に報わねばならん、と殊勝なことを誰が云いだしたのか、若さと生きのよさが看板の堀田広報部長だったか、陽気で、はしゃぎ癖の道又委員であったか忘れてしまったが。委員長は例の如く、「それ、いいじゃないですか」でカラーの表紙と決まった。これは、なかなか評判が良かったようである。カラーにすると当然価が張る。金敵でなる経済大元締の江本先生も顔に似合わず話のわかる男。ここは目をつぶっていただくことにした。かねをかけりゃいい物が出来るものだ、当たり前だよ、と外野席から。

寄せられた原稿の掲載忘れ、及び紛失

岸田先生の『インド・ネパール旅行記』、長文の為に前編と後編に分割したのだが、当方のミスで後編の掲載を忘れて、先生から「3ヶ月経つが、後のはどうなったのか」との督促あり。委員長も委員も大慌て、顔色なし、冷汗じとじと。先生に何とも申し訳なし。全くの大失態。委員長の責は重大、腹切りものである。

更にひどいものがある。窪田先生に頂戴した自己紹介記。これが懸命に探せど探せど行方不明。何と無責任、失礼極まりない。どうお詫びしてよいのか、お詫びのしようもない。兎に角、先生に私の大失態を深くお詫びした次第である。委員長は先に腹を切ったので、今度は打ち首ものである。何の顔かみかみあってか、先生の前に私は出られようか。ところが、皮肉にも先生とは同じ町内まちうちなのだ。予防注射などで、ちょくちょく顔を合わせねばならない。辛いことである。だが、先生は心優しい方であった。私の非礼を特にお許し下さって再び記事を戴いたのである。この先生のご厚情に、私は窪田先生の方に足を向けては、決して寝ないことに

しておる。

109号のこと

我が西多摩医師会も大きく立派になった。人も多くなれば二つ三つの流れが出てくるのも、これ自然なのであろう。流れと流れは治水調節がうまくいかなければ、当然、ぶつかり合い大波を立て渦を巻き混乱するのである。それが、青申の件であり、異例の臨時総会であった。編集委員もこの高波のあおりを食って、秋の某日、深夜まで大揺れの会報丸に全員乗り組み調整に懸命務むるも、うまくいかず6名の乗組員の緊急下船となり、異例の109号の発航となった。こんな事態となったのは、船長の操舵の失敗、力不足が因であって、委員長としては責任をとらねばならない。

これは、脳天幹竹割りものである。

校正について（誤字、脱字、誤植の件）

いやになるよ、これが毎号のように出てくるのである。折角、玉稿を寄せられた先生に、ご不快、ご迷惑をかけて真に申し訳ない。平にお詫び申し上げる次第である。

この問題は、以前に桂木委員から、近くは112号で道又委員が申しておるように、毎回会議の度に校正の話が出て一同気を配っているのだが、尚この仕末。これ又、委員の努力不足と云うより他ならない。弁解できないことである。誤字、誤植、脱字等で意味不明となったり、恥しい思いをしたりで、書いた人に不快な思いをさせるのは大失礼である。

ずっと前の話、私の原稿中の横文字のrがなぜか、hに化けていたので、前委員長のK先生に、「これでは意味がさっぱり判らないですよ」と申し上げたら、K先生は「あんたはHな男だからよ、ウッフッフ」。ふくみ笑いなどされて、全然同情して下さらないのであった。そのK先生も、今は好きなHが駄目となられたらしく、今は専らカラオケ空女ケベ気婆で歌うことに生きがいを見つけておられる。

校正不充分の責は、やはり委員長にある。委員長は先に腹を切り、打ち首となり、脳天を割った。後は何を切れればよいのか。この責は余りにも重大だ。気の毒だが、男根ぶった切りより他になかろう。かくして、私も今はHな男でなくなったのである。

おわりに

私達の任期2年間に協力を惜しまれなかった会

員の諸先生に謹んでお礼申し上げます。

又、優柔不断、好い加減を看板にしておる男を、なぜか委員長に据えられた8名の自虐性委員の先生方が、一生懸命に頑張っていて務めて下さったこと

に深く感謝をいたします。

この会報が、西多摩医師会員の交流の場として、又、和のための手段として活用されて、ますます発展していくことを希望いたします。

つれづれなるままに

植 田 稔

お叱りをうけそうだが、楽しい欠点のある人と付き合えるのは嬉しい。自分が欠点だらけだから、どこかで共感を覚えるせいである。神様は公平であらせられるから、すべての人に欠点を与えられ、完全な人間はお造りにならなかったと信じている。

診療室でも「若い者にいびられて淋しいんだ」というお年寄がおれば、その淋しさよくわかるとすぐ言うてしまう。「嫁さんに理解してもらえなくて悲しいんです」ああよくわかるよおばあちゃん。「失恋してしまったので身投げでもしたい」という青年がおれば、ああよくわかる、だがね…とやってしまう。患者と医者、永く交際している医者同志の話し、ともによくわかる。共通の生活基盤があるからである。

わからないのが政治向きの話し。あまりベダンチックでなくてわかりやすいのが、田中角栄さんと渡辺美智雄さんの話し。あとはさっぱり分らない。

そこで、思想、政治向きの話しについては、AさんはA的思考、Bさんの持っているのはアポロ打ちあげB計画、Cさんの実践はC流方法論なん

だと考えて、ケリをつけることにしている。

しかし、目的地が同じ方向にあれば、多少の方法論の違い、速や足、並足、急ぎ足、バイパス通るか、旧道通るかの違いはあっても一緒にやっていけるものである。好き嫌いがはげしいと朝な夕なに反省している自分がそう思うのであるから、51%当たっていると思う。

今回が編集委員の末席をけがして2年、最終回なので、一寸マジなことにふれる。医師会は地域医療の一翼を担っている専門集団であり、日増しにきびしさを肌身に痛感する医療情勢に対応しなければならぬ。会報は医師会活動の一環として重要な役割を演じている。大げさに言えば、社団法人、西多摩医師会定款の意を体して存在しなければならぬと考える。従って会報のもつ責任は大きい。医師会員の会報をたとえ任期満了だからとは言え、その誌上に私見を述べるのは越権ではなからうか。

会員の先生方、編集委員の諸先輩の御指導を心から感謝いたします。

会報編集委員を終えるにあたり

菅 井 義 久

編集委員の末席に名を連らねて、2年間、全くの役立たずであった小生が、編集委員を終えるに当たり、会報についての私見を述べるのは、まことにおこがましいことではありますが、いつときでも名を連らねた責務として、御容赦いただきたく存じます。

個々の医師の好むと好まざるとに拘らず、医師

そして医師会そのものも、今後ますます、その地域社会との関係が密接になってゆくように、思われます。それと同時に、医師会は、その地域社会における存在価値を、充分認識し、医師会自体の社会的地位の向上に努める必要があろうかと考えます。

医師会報のありかたとしては、いろいろの議論

があるところと思いますが、上に述べたような医師会の姿勢を反映するものであってほしい気がします。会員の中には、いろいろな考え方があり、そこから多くの議論や論争が生れることは、極めて当然のことではありますが、こゝ数年、会報に表

われた論争の多くは、日常の対話の中で処理し得る問題のように思われ、会報という場に、ふさわしくないのではないのでしょうか。

来るべき昭和57年度の、新しい編集委員の方々の御活躍と御健康を、祈っております。

編集委員を体験して

高 木 惟 史

2年前、突然編集委員の辞令を手にした時は本心に驚いた。それまでは、編集なる仕事を経験したこともないどころか、西医会報誌にも殆んど関心なく、時折目にとまると、ニュース欄を覗いた記憶があるのみであった。とにかく当初は編集会議に臨んで緊張したものであった。そして、当番にあたると、普段文章を書いていない身には、編集後記を書くのが一苦勞で、まだ原稿の集まらぬ先から、推敲を重ねる有様であった。その上、原稿がどうしても集まらぬ時には、自ら執筆せんと四苦八苦し。しかし編集委員会自体は、非常に和やかで、談論風発、日中の仕事の疲れを癒すには丁度よい機会であった。こうした雰囲気なもの、本会誌が、同好会的性格をその源流にもっているためと思われる。だが、議論を重ねていくうちに、委員の間で、本会誌のあり方が話題にあがるようになってきた。

西多摩医師会が次第に巨大化してくると同時に、医療をとりまく環境は、一般に俄に、厳しくなってきた。このため、医師会としては、対内的には会の組織を確固たるものにしていく必要が生じてくるだろうし、対外的には、会の存在意義を広く世に問うべく、啓蒙活動の必要性も生じるだろう。

こうした事から、会誌は機関誌としての性格をより顕著なものとして、敏捷に行動する必要がある、同好会誌的のんびりムードは分離すべきであ

るとする発想も出てくるのかも知れない。

過日、編集委員の間で会誌編集のあり方について、真剣に討議され、医師会員の間にも大きな波紋を生じた事も一例と言えよう。また、昨年来、四季に応じた特集号を組んで、この中に文芸雑誌的要素を盛り込むようになったのも、もともと、原稿が中々思うように集まらないため、苦肉の策でこのようになったのだが、やはり、機関誌、同好会誌2分化への過渡期のように思えてならない。ただ、純然たる機関誌になった時、編集委員のあり方が問題になってくる。検閲という戦前の忌まわしい言葉をもちだすまでもなく、編集委員自身のモラルを厳然と確立する必要がある。また、第二次大戦における枢軸国側の広報活動の実例をもちだすまでもなく、誤った活動は自らを亡ぼす事になる事を銘記しなければならない。最近の世論の医療機関に対する厳しい批判に耐えかつ、これに立ち向かう強固な対外活動は、全体主義的な硬直化した画一的言論の中にあるのではなく、他人のみならず自らも同じように、自由に批判し、戒める弾力のある議論の中にあると言える。

今後、西多摩医師会の、益々の発展を考える時、医師会の小機関である編集委員会にもそろそろ、発想の転換を迫られる時期にきていると、つくづく感じる昨今である。



あ と が き

56年度最終編集会議で総会の記事も含めてとの広報側との申し合わせと年度変わりのためマスタ印刷も繁忙をきわめる事態が重なり、諸先生のお手元に届くのは月末になると思います。

会長瀬戸岡先生には診療および諸種会議等のご多忙中にも拘らず冒頭のご寄稿を頂き有難うございました。

井沢先生の西多摩全域に亘る医療幾歳月、何人も温かく包み込むお人柄溢れるご投稿は、非常によいタイミングでしたし、文中再びお書き願えるとの事編集委員として光栄です。

栗原正吾先生が不帰の客となられた由、急遽三沢先生に筆を執って頂き有難うございました。西多摩医師会60年史に掲載されておりました栗原先生の遺稿「父のこども」を偲び改めて会報の誌上より御冥福を御祈り申し上げます。

表紙の強羅風景は速水先生自ら医師会館に絵を運ばれ、原田事務長さんが激写すること数十回の中から一番芸術性のあるものを選びました。御兩人に改めて感謝致します。

先月号の編集委員会のとき「来月は今期の最後だし是非皆で将来の会報のために何でもよいから書いてほしい」と願ったところ、会報愛に燃える執筆をいただき会報を賑わして下さいました。

堀田先生は終始熱血的に頑張っておられたし、川辺先生は会報112号に先生の考えをたっぷり披露して居られると思います。桂木先生は機会をあらためて会報を暖めていただける事と信じます。

空っ茶をすすりながら何もわからず片隅に多少萎縮して過ごした川崎キャップ時代、飲んだり食ったり言いたい三味だった堤キャップと二代の編集委員ライフ、毎月毎月の会報を手取るたび特に自分の当番の時など、私の心の財産がどんどん膨れあがる思いで夢中になって楽しくすごさせて頂きました事を諸先生に御礼申し上げます。

✳ またまた和田市にて

去る3月12日最終編集委員会の雑談を抄録風にしますと、堀田先生は正義の眼窩部負傷により狭客風黒眼鏡で、アルコール飲料あれこれの後焼酎に限るとか。川辺先生のパブ・スナック・ピストロetcの区別を博識な頭脳で明快に説明。今流行の心身症について専門の植田先生の講釈に続き、

堤編集長の実物はもちろんだが雌性開脚凶譜によるシンシンショウ。その間にいつも毅然としている鈴木先生に、最後だから皆が崩れてみせてくれとせまってみたが、空しくにこやかに受け流された風情。いつもながらの菅井先生の短言的射のスピーチも混じり込み、インターン制度は絶対必要だったと説く高木院長、さすが医療問題オーソリティーか……。最後の方の圧巻は広報部長の男女問題のテーマにおいて、一夫一婦制の貞操感是他から植えつけられたもので本来人間はそんなものは持ち合せていないとのお説は、今期の広報部の爆弾声明として特筆に値するものである。

少々あとかきが悪書みたいになりましたが、私は4年間編集委員として自己保身的感情をぬいて牛歩的に頑張ってみました。そんな粋がる事はない。なぜなら粋なる私流定義は、生意気で一見カッコよいが反面非常に脆いものを持ちあわせているという意味だから。

会報の道よ定かなれ!!

昭和56年度最終号あとかき当番 道又正達



昭和57年4月1日発行

発行所 西多摩医師会

東京都青梅市西分3-103

TEL(0428)23-2171(代)

会報編集委員 堤 次雄

植田 稔 桂木 真 川辺 隆道

菅井 義久 鈴木 修 高木 直

堀田 洋夫 道又 正達

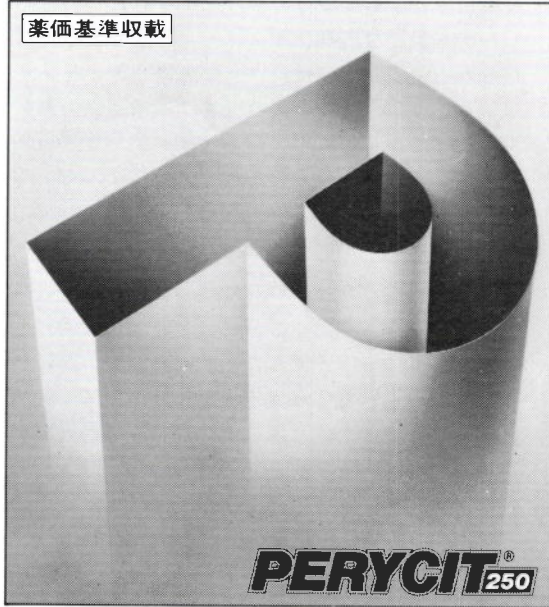
印刷所 マスタ印刷 TEL(0428)22-3047

新開発品

ペリシット[®]カプセル

脂質代謝改善剤

薬価基準収載



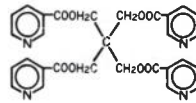
【特 長】

1. ニコチン酸のプロドラッグとして作用発現する
2. コレステロールばかりでなく、他の血清脂質も低下させる
3. 動脈壁への脂質沈着を抑制する
4. HDL-コレステロールを増加させ、LDL-コレステロール、VLDL-トリグリセリドを減少させる
5. 高脂質血症に伴う諸疾患の随伴症状を改善する

【組 成】

1カプセル中 ニセリトロール……………250mg

ニセリトロールの構造式



●一般名 nicothyl nicotinate

●ニセリトロール

●化学名 pentaerythritol tetranicotinate

●分子式・分子量 C₂₉H₂₄N₄O₈ : 556.54

【適 応 症】 高脂質血症の改善

【用法・用量】

ニセリトロールとして、通常、1日量750mgを毎食直後3回分割経口投与する。

なお、年齢・症状により適宜増減する

●使用上の注意は、製品の添付文書をご参照ください。



株式会社 三和化学研究所
名古屋市中区東外堀町2丁目3番地

®：登録商標(スウェーデン・ポフォース社所有)



赤血球の変形能を高め、

脳微小循環での血流を改善する。

脳微小循環への新しいアプローチ。

7.5 μ \leq 3.0 μ 直径7.5 μ の赤血球は、直径3.0 μ の毛細血管を自ら変形しながら通過します。この赤血球の変形能を高め、脳微小循環の血流を改善するトレンタール。容れ物(血管)ではなく中身(血液)に着眼したヘキストの、新しい治療概念をもつ微小循環改善剤です。



微小循環改善剤<ベントキシフィリン>

トレンタール錠

健保適用



ヘキスト ジャパン株式会社
医薬品事業部

東京都港区赤坂8-10-16 107・TEL(479)5111(大代)

●詳しい用法・用量、その他の注意などは、現品添付文書(能書)をご参照ください。



中央臨床医学研究所

〒197 東京都秋川市雨間 5 2 3

TEL 0425-59-4843

正確で信頼性の高い臨床検査

- 検査内容 ■ 日常検査 生化学検査／血清・血液学検査他
- 特殊検査 内分泌学検査／ウイルス検査
免疫学検査／病理組織学検査他
- 集団検査 小・中学生検査／成人病セット検査

くらしの知恵と情報を

ホームバンクの埼玉銀行



埼玉銀行

青梅支店 (TEL 0428-22-1101)

東青梅支店 (TEL 0428-22-2121)

青梅支店 (TEL 04288-3-2515)
奥多摩特別出張所

福生支店 (TEL 0425-51-1021)

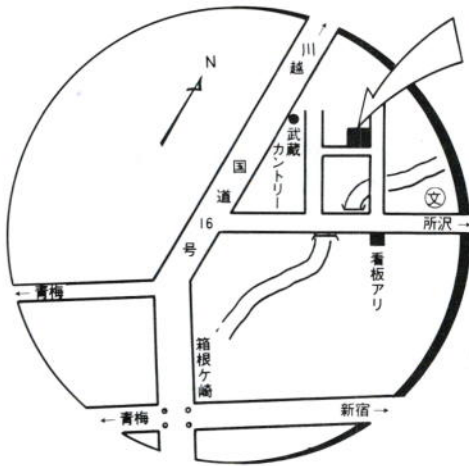
村山支店 (TEL 0425-61-1211)

五日市支店 (TEL 0425-95-1311)

河辺支店 (TEL 0428-24-2401)

期待と信頼にこたえて15年!!

検査のことなら**武蔵臨床**へ 電話一本緊急検査に応じます
学校, 会社の集検にも御利用下さい



埼玉県登録衛生検査所

武蔵臨床検査所

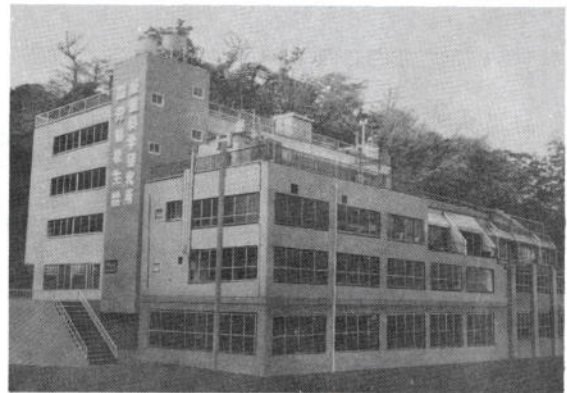
所長 杉田 富徳

埼玉県入間市上藤沢 3 3 9 ~ 1

TEL 0429 (64) 2621(代)

臨床検査センターの雄 保健科学研究所

横浜市保土ヶ谷区神戸町106
電話 045 (333) 1661 (大代表)
八王子市子安町3-17
電話 0426 (26) 2203・2204



- 総合臨床検査センターとして20余年間地域医療に貢献し、絶大な信頼を頂いています。
- 完全オンラインシステム化を実現致しました。(データ通信システム)
- 関係医療機関 約 3,500ヶ所
- 広範囲な検査内容
 - 内分分泌学検査 ●免疫学検査 ●ウイルス検査 ●生化学検査 ●血清学検査 ●血液学検査
 - 病理組織検査 ●細胞診検査 ●重金属検査 ●水質検査

1 都11県の御得意先を毎日定期的に集配致します。御一報を御待ち致しています。